

# 自ら課題を追究する子どもを育む NIE

～子どもの追究意欲を高め、人・地域・社会とつながる新聞活用～

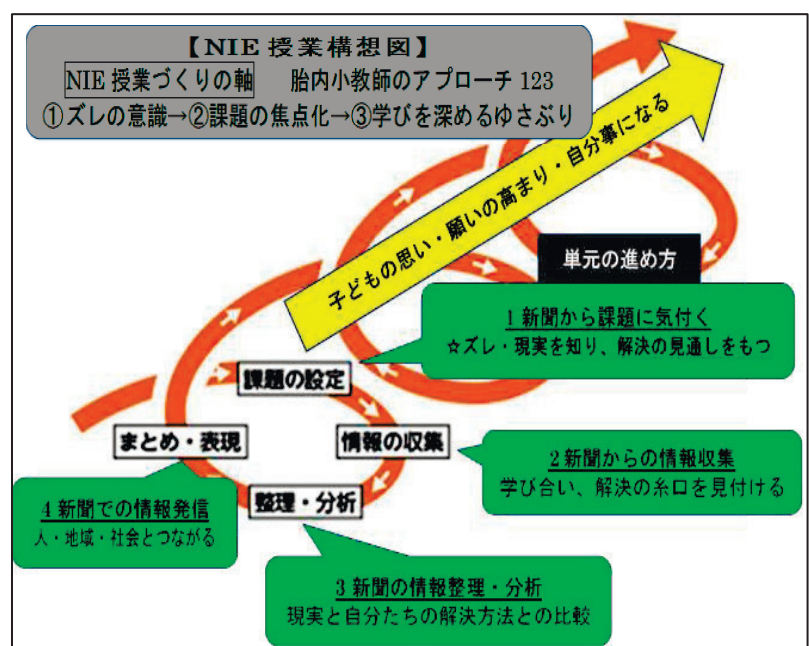
胎内市立胎内小学校

## 1 NIE 実践のねらい

当校では、問題解決的な学習が発展的に繰り返されていく一連の学習活動を「探究のプロセス」とし、「課題設定」「情報の収集」「整理分析」「まとめ・表現」の学習過程(下図：NIE 授業構想図)を経ながら、児童が課題意識を高め、自ら課題を追究する姿を目指している。それを具現化するためには、児童が学習材とかかわる過程で得た興味・関心、疑問、願いを「どうしても調べてみたい」「解決したい」という思いまで高め、自分の課題に高めることが重要である。児童はその課題意識を原動力とし、自ら課題を追究していく。

NIE 実践においては、児童が自ら課題を追究する姿を目指し、各学習過程における効果的な新聞活用の在り方について研究を進めてきた。新聞は、厳しい校閲を経て、政治、経済、文化、出来事などの多種多様な情報を提供してくれる。教師がそのような新聞記事を教材として与えることで、児童は新たな視点をもったり、自分の予想や考えとのズレに触れることで課題意識を高めたり、自身の学びを発信するために新聞の書き方を学んだりする。児童が事象に出会い、課題意識を高める「学びの入口」としての新聞活用、一連の探究活動を経た上で、自分の学びをまとめ・発信したり、新たな視点をもったりする、「学びの出口」としての新聞活用の在り方を探っていく。

また、探究的なプロセスにおいて、「学びの出口」は、まとめ・表現を通して自ら学びを再構築する場であるとともに、多様な視点を得るなどして、さらに課題意識が高まり、焦点化した課題を得る、新たな「学びの入口」でもある。問題解決的な学習が連続し、発展的に繰り返されていく探究のプロセスの在り方を探っていく。



## 2 本年度実践の概要

### (1) 新聞に親しむ日常活動の重点的な取組

ア 新聞に出会い，新聞に親しむことができる環境整備

イ 委員会活動等を通して，新聞のよさを全校児童に広める機会の設定，児童同士が新聞からの学びを共有できる場の設定

ウ 家庭での新聞音読，家庭学習での新聞スクラップの推進

| ◆ 具体的な 6 つの取組 |                                                                                                                                    |                                                                                                                  |                                                                                                             |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 環境整備          | ① NIE について <u>校内研修</u><br>(全教職員)<br>NIE の目的や取組の方向性，具体的な指導方法を教職員で学んでいく。                                                             | ②新聞に親しむ <u>環境作り</u><br>(全学年)<br>数社の新聞を児童が自由に閲覧できる場の設置。Nっ子アンケート掲示板で新聞記事に対する自分の考えをもたせる。                            | ③新聞記事の <u>音読</u><br><br>図書委員会児童による新聞記事の音読放送をする。記事の内容や投稿に耳を傾ける習慣をつける。                                        |
|               | ④朝学習に新聞を読む「 <u>Nっ子タイム</u> 」<br>(全学年)<br>新聞を読み，気になった記事を囲んだり，自分の考えを作文に書いたりする。また，「 <u>新聞マンスリープロジェクト1年の旅</u> 」で毎月のテーマを決め，新聞記事への感心を高める。 | ⑤「 <u>新聞スクラップ</u> 」<br>の取組<br>(3～6 年)<br>新聞記事をスクラップして感想を書かせることで読解力，表現力を育成する。三部連携の生活リズムパワーアップデーの家庭での自主学習の取組に組み込む。 | ⑥新聞記事の <u>授業での活用</u><br>(全学年)<br>資料として指導に活用する。「教師のアプローチ 123」のどこで新聞を入れると児童の学び合いが深まるのかという視点で効果的な新聞の活用方法を検証する。 |



|      | 「新聞マンスリー1年の旅」のテーマ     | 学校行事・学級活動・児童会活動との関連 |
|------|-----------------------|---------------------|
| 4 月  | 新聞にはどんなことが書いてあるのか     | 図書委員会の活動掲示物         |
| 5 月  | 図書委員会の人がえらんだ新聞を読んでみよう | 図書委員会の活動掲示物         |
| 6 月  | アスリート・スポーツの記事を読もう     | いじめ見逃しゼロスクール集会      |
| 7 月  | 川，海，山から学ぼう            | キャリア教育              |
| 9 月  | 平和について考えよう            | 胎内市教育の日・人権教育，同和教育   |
| 10 月 | 政治や社会のわだいについて知ろう      | いじめ見逃しゼロスクール集会      |
| 11 月 | 環境について知ろう             | 生活リズムパワーアップデー       |
| 12 月 | 人権について学ぼう             | 人権教育強調週間            |
| 1 月  | 季節にかかわる伝統・行事を学ぼう      | 道徳教育                |
| 2 月  | 感染症や体のことについて知ろう       | 生活リズムパワーアップデー       |
| 3 月  | 震災・災害をわすれない           | 防災教育                |

## ○胎内小「Nっ子タイム」の様子



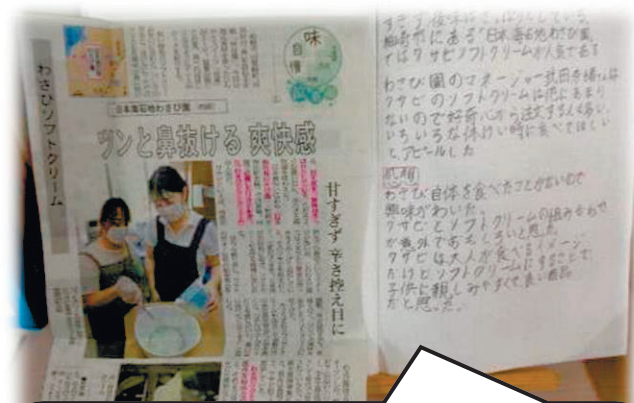
水曜日は「Nっ子デー」で、全校でのリモート学習を実施。一つの記事について全校で学び、毎月のテーマに沿った記事や新聞活用の成果も共有した。



図書委員による記事選定や毎週1回の朝の新聞記事の音読により、新聞への興味関心が高まった。



「1年の旅」の月テーマに沿って、新聞記事を掲示し、クイズを出題。児童は足を止め、じっくりと記事を読んでいた。



「校内Nっ子自学コンテスト」を実施した。児童が興味のある新聞記事を持ち帰り、自学に活用できるように自学用新聞コーナーを設置した。モデルとなるノートを掲示し、成果を全校で共有した。



各学年の発達段階に合わせ、テーマに沿った新聞記事を提示し、感想を書かせて掲示した。1つの記事でもいろいろな感じ方があることに興味をもたせることができた。

## (2) 校内研修

### ①授業研究

全学級で生活科・総合的な学習の時間において新聞を活用した授業実践を行い、互いに参観したり、その成果や課題を共有したりして、新聞活用の有効性を研究した。11月には研究発表会を行い、指導者をはじめ、多くの皆様から御指導・御助言をいただき、研究を深めることができた。

|    | 期日    | 学年・組 | 単元名（主題名）             |
|----|-------|------|----------------------|
| 1  | 5/18  | 6年1組 | 胎内を知らないなんてもっ TAINAI! |
| 2  | 7/3   | 2年2組 | めざせ生きものはかせ           |
| 3  | 7/19  | 4年2組 | 柴橋川未来につなげ隊！          |
| 4  | 9/13  | 1年1組 | なかよくなろうね 小さなともだち     |
| 5  | 10/18 | 4年1組 | 柴橋川 未来につなげ隊！         |
| 6  | 11/8  | 1年2組 | きせつとなかよし あき          |
| 7  | 11/17 | 2年1組 | えがおのひみつたんけんたい        |
| 8  | 11/17 | 3年2組 | みそづくり名人              |
| 9  | 11/17 | 6年1組 | 胎内を知らないなんてもっ TAINAI! |
| 10 | 12/13 | 3年1組 | 学区じまんを知らせよう          |
| 11 | 1/24  | 5年2組 | 米作りに挑戦！～米粉のよさを伝えよう～  |
| 12 | 1/26  | 5年1組 | 米作りに挑戦！～米粉のよさを伝えよう～  |



### ②職員研修会

新潟県 NIE アドバイザー 海老名 崇 様（新発田市立第一中学校教諭）を招き、NIE 研修会を行った。総合的な学習の時間で NIE 実践を進めるうえでの新聞活用について学ぶことができた。また、今後の学習活動について、学年部で授業研究を行った際には、「どの場面で」「どんな新聞記事を使うとよいか」など、適切な助言をいただいた。



## 4 実践内容

### (1) 実践例 1 4年 総合的な学習の時間「どのようにすればホタルが住み続けられるのか」

#### ①ねらい

新聞記事の川からホタルがいなくなった原因を川の環境の視点から整理分析することを通して、柴橋川も新聞記事の川と同じ課題があることに気づき、解決するためにどんなことをしたらよいかを考えることができる。

#### ②使用した新聞記事

佐渡市立両津中学校の生徒が久知川の清掃をしている記事。昔はホタルがいたが、絶滅したので、地域と協力してホタル復活を願いながら活動している。

(2018年7月24日付け 新潟日報)

#### ③手立て

初めに記事の写真の一部を提示し、その次に写真の全体を提示し、どんなことが分かるかを話し合わせたり、見出しを予想させたりして、対話を活性化させる。ホタルが絶滅してしまった川だということに気付かせ、どんなことが原因かを探らせる。自分たちの学区にあるホタルが舞う川とは違うという児童の認識に対し、地域の方の「ホタルがいなくなってきている場所がある」というインタビューを見せることで、実際には似ている点があるという展開につなぎ、どうしたら解決できるかを考えさせる。

#### ④授業の実践

児童が今まで学習してきた中で、自分たちの学区のホタルが舞う柴橋川は、水がきれいとてもよい川だから毎年ホタルが舞うという認識であった。新聞記事を提示すると、久知川にホタルがいなくなった原因を探り始めた。だが、地域の方のインタビューと新聞記事を対比しながら読むことで、柴橋川には、久知川と同じ課題があるかもしれない、何とかしたいという思いを高めることができた。これからホタルが減少し続けられないように原因を探り、どのように解決していくかを考えさせることができた。さらに、児童の発言からも課題が自分事になっていく姿が見られた。児童がごみや水辺の環境が要因であることに気付いたところで、さらに新聞記事の本文を提示し、本文からカワニナの生息がホタルが育っていく鍵となることを読み取らせた。ごみがないことや水がきれいなことがホタルを舞わせるための一番の要因だと考えていた児童に、カワニナの生息という新たな視点を与えたことで、次はカワニナを詳しく調べていきたいという思いを引き出した。



## (2) 実践例 2 6 年 総合的な学習の時間「胎内を知らないなんてもっ TAINAI!」

### ①ねらい

他地域の PR 活動している記事を読むことを通して、胎内市の地域活性化のために、新たな PR の内容や方法を考えることができる。

### ②使用した新聞記事

- ・豊浦小の児童が豊浦の魅力を伝えるかるたを再作成した新聞記事

(2023 年 3 月 24 日付け 新潟日報)

- ・妙高の魅力すごろくを作成した新聞記事

(2021 年 11 月 12 日付け 新潟日報)

### ③手立て

胎内市に魅力を PR する方法として、自分たちの考えが不十分であると気づき始めた児童に、「かるたを作って地域活性化を目指したこどもたち」の記事を提示する。新聞によって自分たちでももっとできることがありそうだという児童の思いを広げること、新たな PR 方法を考えさせる。

### ④授業の実際

導入では、「自分たちの方法で、本当に胎内市の PR になるか」という発問に対して「たしかにポスターはほとんど見ないしな…」と新たな方法を考え始めた。そこで、新聞記事を提示し、子どもたちに「すごろく」という新たな視点を与えた。児童は新聞記事を参考に、「じゃあ、これもできそうかな」と発想を広げ始めた。グループ活動では、複数の新聞記事を参考にしながら、PR の新たな方法を考えていた。児童は、新たな視点をすることで「胎内市を題材にしたゲームを作る」など、相手がおもしろいと感じる PR の方法を考えた。



## 4 成果

本年度の実践では、児童が新聞記事によって思いを高め、思考をめぐらせながら探究していく姿が見られた。身近なものや地域素材について探究していく中で疑問に思うことに会った時や解決の見通しが不透明な時など、児童の学びが滞りそうな場面において、教師が新聞記事を提示し、読ませることによって児童の探究が広がっていくことが分かった。NIE を通して、新聞記事の中の現実に触れ、さらに課題意識を高め、自分事にしていく児童を育むことができた。今後も児童の思いを広げ、深める新聞活用を目指し、実践していきたい。

(茂呂 祐亮)

## 担当 NIE アドバイザー及び担当新聞通信社からの一言

### 1 担当 NIE アドバイザー

新発田市立御免町小学校 教諭 高澤 元



胎内小学校の研究会では、3年生の総合的な学習の時間を参観させていただきました。地域の自慢として学校の近くにある「五十嵐こうじや」様を取り上げ、「味噌離れ」を食い止める取組を紹介する記事を使った授業でした。味噌の消費量が減っている現状を理解し、味噌離れを食い止めたいという思いを高めている姿が見られました。総合的な学習の探求のスパイラルを加速していくためには、児童の思いや願いを強くする必要があります。実在する人物を扱う新聞記事は、その人の思いや願いに触れることができ、児童の探求のスパイラルを加速させるのに効果的に働いていることが成果として見られました。一方、課題としては、今回取り上げた小千谷市の味噌業者についての記事が、ねらいに迫るために適切だったのか、また提示のタイミングや扱い方によって児童の思考の深まりが変わってくるのではないかとということが挙げられました。たくさん学ばせていただいた実りある研究会となりました。

### 2 当新聞・通信社

産経新聞社新潟支局長 本田 賢一



胎内市立胎内小学校の研究発表会に参加させていただき、NIEの新しい可能性を見た気がしました。3年生は、味噌製造業者がパン店と組んで味噌スープを開発したという記事を題材にしていましたが、児童たちが実際に市内の味噌製造業者を訪ね、味噌を取り巻く実情を自ら調べていました。単に新聞記事だけで授業を行うのではなく、実際に現場に飛び込んでみる姿勢に感服しました。記事と別のものを組み合わせてNIEがさらに進化することを期待します。

共同通信社新潟支局長 小熊 宏尚



「新聞の見出しは伝えたいことを、読む人が読みたくなるように付けるのです」。胎内小3年生の授業で、こんな指導をしているのを目の当たりにして、驚いた。新聞社や通信社が若い記者に行っている研修でも、全く同じことを強調しているからだ。この点を理解してくれれば、新聞の作り手が読み手に対して伝えたいメッセージがより明確に伝わる。記事に付ける写真の選び方を学習していることも含め、これからは自分自身で情報を収集し、発信していくであろう子どもたちがとても頼もしく見えた。